

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

11月19日は「国際男性デー」でした。ちなみに「国際女性デー」は3月8日です。

11月19日付岩手日報に、男性主体でジェンダー解消を目指すプロジェクト「#MenWithWomen」が発足し、「男性の行動基準15カ条」を提唱したという記事がありました。

「男性の行動基準15条」は、組織内での「性差」、「男女のコミュニケーション」、「セクハラ」、「性暴力」、「男性自身の心得」という5つのテーマに焦点をあて、男性の言動を不快に感じるなどした女性の体験談を基に考案し、ピクトグラムで分かりやすく表現したものです。主な内容は、「2 男女で異なる評価・対応をやめよう」「9 女性の外見ジャッジをやめよう」「15 傍観者・中立マンを卒業しよう」など、ゴールとタスクを15項目設定し、ジェンダー平等社会にふさわしい男性の在り方を示しています。

ジェンダー不平等の問題は、男女の家事時間においても解消されない課題です。

NHK 放送文化研究所の国民生活時間調査の2020年調査によると、30代・40代の平日の家事時間について、「結婚していない」場合、女性1時間36分、男性が49分ですが、「小学生前の子どもがいる」場合になると、女性9時間37分、男性1時間44分、「学校に通っている子どもがいる」場合になると、女性5時間6分、男性57分と男女間で大きな開きが出ています。

新聞記事の中で、「#MenWithWomen」の発起人である勝部さんから「男性側が変わり、差別や性的被害をなくす視点を持ってほしい」という言葉がありました。

ジェンダー不平等の根底には、「男性が基準」という習慣や風習、歴史的な背景による固定的な役割分担があるからだといふ以前学んだことがあります。

女性、男性に問わず、その人の人柄や能力が十分に認められる社会になるよう、その第一歩としてまずは、家庭での自分自身や家族の家事時間を計算してみたいはいかがでしょうか。

【参考】

・ #MenWithWomen

<https://men-with-women.com/about/>

・ NHK 放送文化研究所国民生活時間調査

<https://www.nhk.or.jp/bunken/yoron-jikan/column/housework-2020.html>

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育てで電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Twitter】<https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★